

インターネットで見る中国における村上春樹『1Q84』の受容

施 小 焯

The Reception of Haruki Murakami's *1Q84* on the Internet in China

Xiao-wei SHI

Abstract

As a "convenience of civilization," the Internet has already been indispensable in the daily lives of many Chinese people, of which the Internet has influenced nearly every aspect. At the same time, it has also brought about great changes in the reading horizon. There seems to be no end to such influences.

Nowadays, most Chinese readers, especially young ones, only use their campus or local bookstores to preview the contents of books in which they are interested. They never buy from these stores, only online.

Meanwhile, the Internet has become an online library, or reading room, for many young Chinese people. It is quite common to see people reading something they have downloaded from the Internet on their smart phones or e-readers.

On the other hand, the Internet has turned into a place for criticism. Readers often use the Internet to exhibit their impression of or comments on a book they have read, and to exchange their frank opinions and views. In this article, I give a general survey of the Chinese grasp on *1Q84* through Internet comments and criticisms, analyze them, and finally attempt to outline the reception of Haruki Murakami in China.

一、中国人の読書地平における インターネット

インターネットは現在、多くの中国人の日常生活においては、もはや不可欠な「文明の利器」となっている。このインターネットの影響は止まるところを知らず、ほとんど社会生活・個人生活のありとあらゆる面に及び、無論、読書地平にも計り知れぬほどの、大きな変化をもたらしており、そしてこの変化は依然として進行中であり、数千年も続いてきた中国人の読書生活のあり方・習慣を変えつつあるのである。

1、書籍販売ルートとして

まず、書籍販売のニュールートとして、インターネット通販サイトはすさまじい勢いで急成長を成し遂げ、賃貸料が高くなる一方の中国で無店舗すなわ

ち家賃ゼロという低コストのアドバンテージを生かしつつ、従来の書店による店頭販売という、伝統的な販売形態の存続を脅かすものとまでなり、すでにたくさんの書店を店舗数削減や甚だしきに至っては店舗閉鎖に追いやったのである。

書籍オンライン販売各社はさらに、確実に成長しつつある膨大な利用者数を背景に出版社と価格交渉を迫り、書店の店頭販売より数割安い価格を可能にし、加えて各種割引特典などの販売促進策も用意して、ますます顧客数を増やしていくわけである。

読者の多く、とりわけ若い読者は、本屋には行くことは行くが、そこでは本を買わずにただ内容などの確認だけをして、読みたい本があれば即、インターネットの通販サイトで購入することになっていると言われる。

現在の中国では、いわゆる「網上書店」(「わん・しゃん・しゅう・てん」、すなわち「ネット書店・

オンライン図書販売会社」の意)は数知れずあるが、中で最も成功しているのは、「当当網(当当ネット)」「卓越アマゾン(アマゾン中国)」「京東図書」の三大手だといわれている。それぞれ、60万種ないし150万種の書物の在庫を常時確保して、日々進化している流通業界と提携しながら、類のない便利さで中国人の図書購入習慣を変えつつあるのである。

2、読書手段として

一方、インターネットをいわば図書館・閲覧室・あるいは我が家の書斎として利用する読者も増えつつある。中国のインターネットには、日本の「青空文庫」みたいな閲覧サイトもあれば、また著作権を無視して無料で文学作品などを提供するものもあり、例えば村上春樹氏の小説は、正式の出版よりも一歩先んじて、——印刷や製本・発行・購入などの手続きは一切不要な故に速い——ファンの人が匿名で翻訳してその訳文をネットに貼り付けて公開するケースもある。さまざまな合法的・非合法的な読み物をiPadや電子ブックまたは携帯電話にダウンロードして出通勤の電車の中で読む風景は、すでに日常的になっているのである。

また、オンライン閲読も異常に発達しており、小説だけでも、無料閲覧サイトは、インターネットでざっと検索すると、57も出てきたのであるが、言うを待たず、これはオンライン読書サイトの全部ではない。

書物の購入のみならず、数千年に亘って続いてきた読書形態や習慣というものも、インターネットの普及により、急激な変貌を促されている状態になっているのである。

3、批評の場として

購入・閲読と共に、人々は読後感や書評を、以前と違い、雑誌や新聞などの在来メディアよりも、積極的にインターネット上で、匿名の形で発表するようにしている。ということはすなわち、インターネットは、従前の「沈黙の大衆」だった一般読者に声を発する場を提供し、誰でも簡単に自らの感想や評論を公けにすることができるようにしていて、これまで書評家や批評家・研究者などという、言わば「プロの読者」によって支配されていた作品批評の独占状態を打破したわけであり、かわりに「国民皆書評家」とも称すべき現象をもたらしたのである。

この、「国民皆書評家」もしくは「読者皆評論家」という現象は、いうならば、いわゆる「読者反応批評(受容美学)」を、本当の意味での実践を可能にするものではあるまいかと思う。研究・批評を職業とする「プロの読者」たる研究者や評論家の反応のみに目を向けるのではなく、名無しの大衆たるごく普通の一般読者の反応を把握してこそ、本物の文学受容・受容史を確認・再現できるのであろう。

ただし、一般読者がインターネットで意見(批評)を発表する場合、プロの評論家や学者研究者とは違い、その大多数は本名ではなく、いわゆるハンドルネームを使用している。この匿名性とは、言わば「両刃の剣」というもので、二面性を内包している。つまり、この「匿名性」という隠れ蓑に庇われているから、人々は無遠慮に本音を吐く勇気を与えられる一方、反対にまた、大胆に無責任な暴言をぶちまける蛮勇を得た、という錯覚を同時に一部の人に与えてしまったのではなかろうかと思う。

中国のインターネットが提供してくる批評の場は、大凡、以下の三種類である。

- (1) 書籍通販サイトのカスタマーレビュー
- (2) ネットユーザーの個人ブログで公開する書評
- (3) ユーザー個人のミニブログでの図書関連つぶやき

(1)の書籍通販サイトには、アマゾン中国・当当ネット・京東図書、というネット図書販売の三大手がある。

(2)のブログを運営する中国のプロバイダーは、2013年現在、新浪博客(シンラン・ブログ)、搜狐博客(ソーホー・ブログ)、中国博客网(中国ブログネット)、腾讯博客(トンシュン・ブログ)、博客中国(ブログ中国)などあるが、最大手は、やはり新浪ブログであろう。

(3)ミニブログ(Micro Blog)は、中国では「微博(ウェーボー)」と言い、2013年上半期の統計によると、「新浪微博」のユーザー登録数は5.36億人で最も多く、二位は「騰訊微博」でも、ユーザー登録数は5.07億人という。ミニブログで発信するという行為は、中国人ユーザーにとってインターネットにおける最も主要な活動となっているといわれる。

二、中国のインターネットにおける村上春樹

1、春樹関連サイトの概況

中国のインターネットには、テーマを村上春樹氏本人やその著作に限定するウェブサイトが幾つもあり、ネットユーザーの村上氏への関心度の高さを如実に示している。以下にその主なものを示しておく。

(1) 百度贴吧 村上春樹の森林

「村上春樹の森」中国語による村上春樹の専門サイト。オンライン閲読及び村上氏に関する最新ニュースや村上語録を提供する。

(2) 百度贴吧 村上春樹吧, (关注:22,319 帖子:865,959) 本吧群组 12 个 村上森林 29 人 村上同好交流会 50 人

「バー村上春樹」お気に入り 22,319 人、記事 865,959 本、グループ数 12。うち、「村上の森」はメンバー 29 人、「村上同好会」はメンバー 50 人

(3) 百度贴吧 1q84 (关注:1,128 帖子:12,644) 「1Q84」お気に入り 1,128 人、記事 12,644 本

(4) 百度贴吧 杰式酒吧吧 (关注:152 帖子:9,288) 「ジェイズ・バー」お気に入り 152 人、記事 9,288 本

(5) 挪威的森林吧 (关注:5,732 帖子:69,564)

「ノルウェーの森バー」お気に入り 5,732 人、記事 69,564 本

(6) 豆瓣 村上春樹的网络森林小组 (村民 27922 人)

「豆瓣 村上春樹のネットの森グループ」メンバー 27,922 人

などなど、数多くあり、中国における村上氏の高い人気の一斑がうかがえる。

2、『1Q84』批評

『1Q84』に対する新浪(シンラン) ブログの書評や新浪(シンラン) ミニブログのつぶやき、及びアマゾン・京東図書・当当ネットのカスタマーレビューとして、ネットユーザーたちの披露したさまざまな、具体的な批評や感想を例に、村上受容の実

態について検証してみると、以下のような多層的反応の存在、多様な評価がなされたことが分かる。

(1) 「分からない」と反応する読者は、結構な数になる模様。とくに「リトルピープル」や「空気さなぎ」は難解らしい。

①八戒 畅销书的困惑 (ベストセラーの困惑) (新浪ブログ、2012-3-31)

看完之后非但没有轻松的成就感,反而一头雾水,心情沮丧,甚至有点后悔赶时髦凑热闹看畅销书。回想起来,当年看村上春樹的另一部畅销书《挪威森林》也是看懂了字,没看明白意思。或许不是畅销书的问题,只是畅销作家的风格不对八戒的路子。

(読み終わってほっとしたような達成感がないどころか、逆にまったくちんぷんかんぷんで訳が分からず、しょんぼりしていた。そして、これはこれは、流行に流されおせっかいをしてベストセラーを読むなんて、と、ちょっぴり後悔もした。思えば、昔村上春樹の別のベストセラーである『ノルウェーの森』を読む時も、文字そのものはちゃんと理解していても、小説の意味はやはり分からなかった。もしかしてこれはベストセラーか否かの問題ではなく、ただベストセラー作家の作風が八戒の好みに合わないだけのことかも知れない)

②风万里 《1Q84》第三本 (『1Q84』Book3) (新浪ブログ、2010-11-13 06:29:41)

《1Q84》の第三本も読んだ。当然、読的是电子版。迄今为止,仍然不知道空气蛹和小小人到底有什么意义。

(『1Q84』のBook3も読み終わった。もちろん、电子版で読んだのである。

未だに、空気さなぎとリトルピープルは一体、如何なる意味を持つものか、分からない)

③曹雪玮:(新浪ミニブログ)

真心没看明白村上的1Q84,到底是要表达什么??小小人是谁?“先驱”真的存在吗?还有深绘里又去了哪里?

正直、村上『1Q84』が分からなかったよ。いったい、何を表現しようとしているのか??リトルピープルとは、何なんだ?「先駆け」は本当に実在していた?そして「ふかえり」はどこに行っちゃっ

たの？

④小村儿里的桔子酱：(新浪ミニブログ、11-29)

终于把村上上の《1Q84》看完了，不过真的没读出什么意思来，读不懂，实在无法理解别人喜欢这本书的原因。

(ようやく、村上の『1Q84』を読み終えた。でもほんと、大した意味を読み取ることができなかつた。分からん。みんなが何故この本が好きなのか、理由は理解できない)

(2) 孤独感。このような感想を持つ読者はほかにも数多くあり、村上文学に現代人の孤独を感じ取ったとは、かなり普遍的な「読者反応」として、あるらしい。

①虫它 nest (新浪ブログ、2010-07-09)

深深い孤独感、像爱丽丝掉进的兔子洞，深深い、没有底。

我想，村上春樹也是孤独的吧？

(深刻な孤独感、深くて深くて、底なしである。(中略))

思うに、村上春樹も孤独な人間だろうな)

②笑忘书 66 经典著作，值得收藏 (京東カスタマーレビュー、2013-12-02) (取っておくべき古典だ)

在这本书里，孤独被升华成为一种精神寄托而渐渐失去原有的存在价值——是一种孤独到“孤独”这个词本身所不能承载的境况

この本で、「孤独」は精神の拠り所として昇華させられ、本来持っていた価値を失いつつある——「孤独」という言葉で表現しきれないほど孤独である。

(3) 組織対個人の図式で『1Q84』を読み解く論評
假如爱有天意 (李普曼，新浪ブログ、2010-07-09 15:02:29))

一个比1984年要更为真实的世界

(1984年よりさらに真実味のある世界)

每个人都可能从村上春樹の笔下找到一个自己的1Q84年的世界，这句话虽然俗套，但是却无比正确。我所找到的是，组织对于个人的控制。在我找到的那个世界中，其实老大哥在看着你的情形已经发生了。

他并非一个专制的独裁者，而是组织。

(あらゆる人は村上春樹の作品に自らの1Q84の世界を見つけることができる。この言い方は陳腐なマンネリズムだが、正鵠を得ている。わたしが見つけたのは、個人に対する、組織のコントロールである。わたしが見つけたその世界では、実はビッグブラザーがあなたを睨みつけるという状況はすでに発生しているのだ。彼は一人の独裁者というわけではなく、組織なのだ)

(中略)

奥威尔的1984年，人们都被迫生活在老大哥的监控下，有真理部处理他们的思想和世界观。但是在1Q84年的世界里，一切都与此不一样，我们是心甘情愿的接受组织的监控，接受组织传输给我们的思想。甚至我们都不是被组织监控，不是被组织奴役。我们是自愿的生活在组织的框架内，自愿的以组织的名义做被设定好的工作。

(オーウェルの1984年では、人々はビッグブラザーの監視と制御の下での生活を強いられて、「真理省」という官庁が彼らの思想や世界観を扱う。しかし1Q84の世界では、あらゆる物事がそれと異なる。我々は心から組織の監視と制御を望んでい、組織が詰め込んでくれる思想を受け入れる。さらには、我々は組織によって監視・制御され、奴隷化させられたのではない。我々は自ら望んで組織の枠内で暮らし、自ら望んで組織の名義であらかじめ設定された仕事を全うするのである)

(4) 賞賛・支持派。

①丹 喜欢，(アマゾン・カスタマーレビュー、2013年12月4日) (好き！)

很好看的一本书，我们寝室买了一套挺好的。

けっこう面白い本だ。ルームメイトたちとお金を出し合ってワンセット買った。悪くないよ。

「お金を出し合って買う」というところが面白い。回覧するのだろうか。

②劉春雷 爱不释手，(アマゾン・カスタマーレビュー、2013年11月12日) (手放し出来ない)

读了开头就停不下来，

読み出したら止められない。

③李燕 1Q84，(アマゾン・カスタマーレビュー、

2013年11月2日)

一直都很喜欢村上村(ママ)树老师的作品 这本书的意义真的很重大 推荐

昔から村上春樹先生の作品が大好き この本は本当に重大な意味を持っている お勧め

④周小呆 不错, (アマゾン・カスタマーレビュー、2012年6月14日) (悪くない)

喜欢村上春树, 文字很优美
村上春樹の文章が好き。とても美しい。

⑤3117309-55035728 多看书, 看好书 (京東カスタマーレビュー、2013-12-04) (たくさん読もう、いい本を読もう)

从来不看网络晓(ママ)说, 也看不进去四大名著, 更何况看外国晓(ママ)说, 但是自从高中起看了村上的《且听风吟》和《国境》以后, 就对村上春树爱得一塌糊涂, 怎能有如此一个男人。我现在已有自己家庭, 但村上仍旧是我人生的精神导师

ネット小説は全く読まないし、「4大名著」も読む気にならない。いわんや外国小説をや。しかし、高校の時村上の『風の歌を聴け』を読んで以来、村上のことを滅茶苦茶愛してしまって、なんでこんな男がいるんだろうと常に思っている。今はすでに自分の家庭を持っているのだが、村上は依然としてわたしの思想上の道案内人だ。

『1Q84』評というより、村上氏への赤裸々の礼賛である。

⑥51190376-70028192 1Q84 的评价 (京東カスタマーレビュー、2013-11-16) (1Q84 評価)

村上是我正在追的作者, 争取把他的全看了把, 感觉不错

村上は、私が現在追っかけている対象だ。頑張っで彼のを全部読んじゃおう。いい感じだぞ。

村上の追っかけ族と憚らずに自白している。

⑦tangmouse 村上春树不会错 (京東カスタマーレビュー、2013-10-25) (村上春樹だから間違いない)

3大本, 还没来得及及看, 但冲着村上春树的大名, 很期待

分厚いもの3冊! まだ読む時間がないが、村上春

樹の名前はつまり保証付きだから、楽しみだ

村上氏のネームバリューが思い知らされる文章である。

⑧r***c (京東カスタマーレビュー、2013-9-17)

包装很好, 一直喜欢村上作品, 大学毕业论文也是他的选题

装帧はとてもいい。昔から村上作品が好きなんだ。大学の卒論も彼を選んだ。

卒論のテーマに村上春樹氏を選ぶ大学生も少くない。

⑨Sushi __ 1Q84 (京東カスタマーレビュー)

文笔依旧是不同于村上本人外表的细腻, 内容依旧是复杂却又简单难以表述的精简, 一直喜欢村上, 所以会一直支持他。

文章は依然として村上本人の見かけによらず繊細なもので、内容は依然として複雑でありながら簡単で、表現し難い簡素さ。昔から村上が好きだから、これからもずっと支持していく。

⑩无昵称用户 买了以示没有得诺贝尔的支持 2013-10-21 (買うのはノーベル賞を逃した村上への支持を表すため)

买了以示没有得诺贝尔的支持

買うのはノーベル賞を逃した村上への支持を表すためだ

短いが温情溢れる書き込みもある。

(5) 否定派。

①Miss 彦之与 Mr 粉丝一致认为: (新浪ミニブログ、12-5)

书籍《1Q84 BOOK 1、2、3》, 其实就是个爱情故事, 有点失望呀。

本当はただのラブストーリーだね。ちよっぴりがっかりしたよ。

②TH 不要浪费钱, 2013年7月31日 (アマゾン・カスタマーレビュー、カネの無駄遣いをするな)

如果你想了解他, 可以看巅峰之作《挪威的森林》和《海边的卡夫卡》以及处女作《且听风吟》。这个

《1Q84》根本就是个噱头。第一本还差强人意，第二本完全就是扯淡加做爱，至于第三本，我只能呵呵了。真的不建议全买。写的又像推理小说似得（ママ）。真心不喜欢这套小说。

もし村上を理解したいと思うなら、彼の最高な作品『ノルウェーの森』『海辺のカフカ』及び処女作の『風の歌を聴け』を読みなさい。この『1Q84』は、ただの虚飾に過ぎない。Book1はまあまあだが、Book2は完全に無駄口プラスセックス。Book3に至ると、おれはまあ、呵々と笑うしかない。しんそこ、全3冊買うのは、勧めない。まるで推理小説みたい。マジ、その小説は好きにならないんだ。

③張銘 riotkid：新浪ミニブログ

《1Q84》真他妈烂

『1Q84』なんか糞食らえ、つまらんもんだ

前述した「匿名性という隠れ蓑に隠れて暴言を吐く」一例を引いて見た。

③谢小钝 无病呻吟 当当ネットカスタマーレビュー、2013-11-15

我觉得还是消极了点，村上应该写点意义积极的东西，多向人灌输温暖的情感

やはり、いささか消極的だと思う。村上はもっと積極的意義を持つものを書くべきだ。人々に暖かい情感を注ぎ込むように。

(6) 毀誉半々

①娘坚强（新浪ブログ、2012-10-17）曖昧——读《1Q84》（曖昧——『1Q84』を読んで）

难道，作者本身也在两个月亮的世界中迷失而不辨善恶了么？如果《1Q84》传达的东西——没有绝对的善恶，而人们也不必为此惊慌——如果这正是《1Q84》所传达的东西的话，我想村上的曖昧将会有非常负面的影响力。

当然这是文学作品。还是不错的文学作品。因为你只要翻开第一页，就会一口气贪婪地读下去。（中略）《1Q84》足以向奥维尔致敬。

（まさか、作者自身も月が二つの世界の中で方向を見失い善悪を弁えないのだろうか。もしも『1Q84』が伝えようとしているのは——絶対的な善もなければ絶対的な悪もなく、人々はそのために慌てる必要もない——もしもこれが『1Q84』の伝え

ようとするメッセージならば、村上の曖昧は非常にマイナスの影響力を有するだろうとわたしは思う。

無論これは文学作品だ。しかもけっこう悪くない文学作品だ。最初のページをめくったら、もう最後まで一気に読み続けたいって思っちゃう。（中略）『1Q84』は、オーウェルへのオマージュとしては十分だ。）

②浮着两个月亮的故事，（2013年1月11日）（月が二つ浮かぶ物語）

觉得作者肯定是个很智慧的人，有些禅的修为，还有些哲人的味道。

不过，结局处确实让人觉得有些失望，正在我等待更多的真相更多的秘密浮出水面的时候，却发现，其实这仅仅是个爱情故事。

作者はきっと、英知に溢れる人だろうと思う。禅の素養もあろう。また、哲人の趣もある。

ただし、結末には少々がっかりさせられた。もっと多くの真相が浮上してくるのを待っていたのに、なんと、ただのラブストーリーと気づいたのだから。

このような、「『Book3』は蛇足！」との感想や批評も、かなり多い。

(7) 日常生活への浸透

①櫻花虾 livia：（新浪ミニブログ、11-28）

看1Q84太投入，走路时不自觉就抬头看月亮，（あんまりにも『1Q84』に感情移入しているので、道を歩きながら思わず首を挙げて月を見てしまうほどだ。）

②波斯蜗牛：

因村上的《1Q84》开始听雅纳切克（Janacek），一直听到看完厚厚三大本听到快淡忘《1Q84》的情节和带给我的触动，还在听，直到现在。（11-18）

村上の『1Q84』のおかげでヤナチェクを聞き始めたのだが、分厚い三冊を読み終わるまで、そして『1Q84』のストーリーとそれがもたらしてくれた感動を忘れそうになるまで聞いた。まだ聞き続けているんだ、未だに。

③听说名字取得长点就不会被认出来：

第五年，这座校园的秋天依然漫山黄叶，可是变化如同1q84里的那个月亮，在某个结点走上了分裂

和と不帰。

五年目、このキャンパスの秋は相変わらず山ごと黄葉に覆われている。しかし変化は『1Q84』のあの月のように、あるところで分裂と不帰の道を歩むようになってしまった。

日常生活の何気ない場面を目にした時、ふと心に浮かんできたのは、他ならぬ『1Q84』である。

④ @SummerForever 永夏花店：

永夏的 book 花盆系列，灵感来自于村上春树作品《1Q84》中那个倔强、黑暗却无比向往幸福的姑娘。

インスピレーションは、村上春樹の作品のあの、強い精神力を持ち、暗いが無類に幸福に憧れる娘から来ている。

花屋さんの商品紹介である。ここにも村上文学の浸透が見られる。

『1Q84』が、見事に読者の心底に、さらにはその日常に浸透していて、その深遠なる影響を与えている様子を垣間見せてくれる内容である。

以上、ランダムに引いて来た例を見るだけでも、当たり前なことだが、テキスト理解・作家理解の多層性、つまり、さまざまなレベル、さまざまな立場の議論があることが如実に伝わってくる。

しかし総じて、支持・賞賛の評論や書き込みが多く、中国人読者は、小説家村上春樹、その文学を温かい目を以って見ていることが分かる。これは、村上氏を一日本人、一日本の小説家として眺めるのではなく、彼を人類の一員として、彼の文学を世界文学を成す一元素として、受け入れることを意味するのであろう。

作家は、否、人間は須らく、一国、一所、一時の私益に囚われずに、もっと広い心を持ち、偏見や私心を捨て、人類・地球を視野に入れる大所高所に立ってあらゆる物事に対処すべきではないか。さまざまな多すぎるほどの理由のため、実践するのは大変に難しいだろうが、少なくとも、これを我々の理想としなければならないと思う。

そして、村上春樹という小説家が中国を含めて世界的に歓迎されるのは、もしかして、これとも関係があるのではないかと、思う次第である。

三、春樹受容概観

紙幅・時間の制約のため、引用を一切省き、単刀直入に展開して行く。

1、小資作家から「思想小説」作家へ

中国における村上春樹受容は、①「小資作家（シャオ・ツー・ツウオ・ジャー、プチブル作家）」、②「思想家」、という二つの段階に分けられる。

『走ることにして語るとき僕の語ること』の中国語訳が世に問う 2009 年が、その二段階を分ける境目である。

中国で作りに上げられた「小資作家」という村上像は、中国の読者たちが作り上げた中国独特なもので、たぶん日本・日本人や村上氏本人の実像と関係がないかも知れないし、また、そのような実像に最初から関心がなかったかも知れない。

こうした、プチブル作家としての村上像が中国でこの時期（1990年代から2000年代へ）に作られたこと自体は、それなりの意義がある。というのは、これはとりもなおさず、主流イデオロギーへの非協力、拒否、抵抗を意味するものである。そういえば、「小資」という言葉そのものも、主流イデオロギーにずっと批判・否定されていたものである。この、言わば「忌み言葉」だったものを復活させたこと自体、おのずと意義のあることである。

2、ノーベル賞をめぐる議論

日本と同様、もしくは日本以上に、毎年10月のノーベル賞の季節になると、中国でも「村上氏は今年受賞になるか」と予測や議論がなされるのである。そして、受賞にならなかったことも、ニュースになる。

今回も落選後、中国の一部主流メディアはその原因を「彼がベストセラー作家で、作品は通俗的流行文学であり、プチブル化したものなので、ノーベル文学賞の厳粛たる純文学の品位には合致しない」に帰した。

「ポップカルチャー（大衆文化）のストラクチャーに、純文学たる中身を詰め込む」のを自らの「ゴール」とする村上春樹氏をよく理解しているようには見えない。

ただ、心配しているのは、もしかして、ノーベル文学賞の審査委員たちも理解していると言え難いの

かも知れない、ということである。

3、国という枠組みを超越して

(1) 「耽美」などに見る言葉の越境・交流・一体化

同じ「漢字」というメディアを共有する中国と日本。これまでも幾度となく、漢字の越境によってもたらされた両国間の文化の交流や融合は、現象として見られるわけだが、また近年来、「職場」「人気」「親子」「量販」「達人」などなど大量の一般語彙がすでに中国語としての「市民権」を獲得した一方、「萌え」（中国で漢字の「萌」のみ使用）、「おたく」（中国では漢字の「宅」を使用。そして、「宅男・宅女」の派生語も生まれる）、「耽美」、「二次元」などの日本の若者言葉も、いわゆる ACG（アニメ・コミック・ゲーム）に象徴されるサブカルチャーを媒体に、中国の一部の若者の間のみならず、主流メディアでも日常的に使用されるようになってきている。このような事実は、政治問題や外交問題などそっちのけ、民間レベルにおける、共通する価値観の整合や、もしくは文化上の一体化、少なくともその可能性を示唆しているといえる。

(2) 北京への高速列車内の若い女性に見る「草の根の文化交流・その定着」

私事で恐縮だが、個人的な実体験を例にしよう。

2013年12月2日、村上春樹氏の新作長編『色彩を持たない多崎つくるとその巡礼の年』の中国語訳をめぐる対談というイベントに出席するため、筆者は上海から北京への高速列車に乗り込んだ。隣の席に座っていたのは、大学の新卒と思しき若い娘である。彼女は着座するなり、座席の下の電源の位置を確認して、ノートパソコンを立ち上げ、「リーガルハイ（二）」という、調べれば、同年10月9日から12月18日まで十回に分けて、フジテレビ系列で放送された、日本のテレビドラマを見始めたのである。ということは、日本でもまだ放送は終了していない、いわば最新のドラマは、中国ではほぼリアルタイムで若者達が見ていたのである。そして、ランチタイムになると、その若い娘がリュックから取り出した昼食は、なんと、透明のビニールケースに入った寿司なのである。彼女はつまり、ボトルで中国の緑茶を飲みながら、多分日系コンビニで購入しただろうと思われる寿司を食べ、日本の最新のテレビドラマを見て、北京までの高速鉄道の旅を続けた

わけだ。

いうまでもなく、その若い娘は日本人ではなく、中国人だ。そして、このような中国人は勿論、彼女一人のみでは決してないだろう。

筆者は、この自ら経験した事実から、草の根レベルでの、両国の文化交流の定着を現実として見た、そして、そこにあらまほしき両国関係の未来像のワンシーンを見た、と思いたい。

(3) 「双方向交通（ツーウェー・コミュニケーション）」への提案

相互に文化的魅力に憧れ合いながら、相手国の文明を養分として積極的に取り入れ、自国の文明を豊かにしてきたというのは、これまでの両国交渉の歴史そのものであるといえよう。

無論、敵視・対抗し合い、一方的に自らの主張を強引に通そうとするよりは、こうした姿勢のほうがはるかに生産的であり、互いに有利でプラスになることは、改めていうまでもない。

このような草の根の交流をさらに押し広げ、あらゆる層、あらゆる面に拡大していくことこそ、誤解を取り除き、真の理解を深めて、平和で理想的な両国関係を育ていく基礎を作ることであり、そして唯一の歩むべき道だと、筆者が思うのであり、提案したいのである。